



会場一体となって盛り上がった和太鼓演奏

避難指示解除から1年を迎えた檜葉町で9月4日、ホッツァーレ2016「復興祈念の集い」が行われ、幅広い世代の檜葉町民が集い、思い思いに楽しいひと時を過ごした。

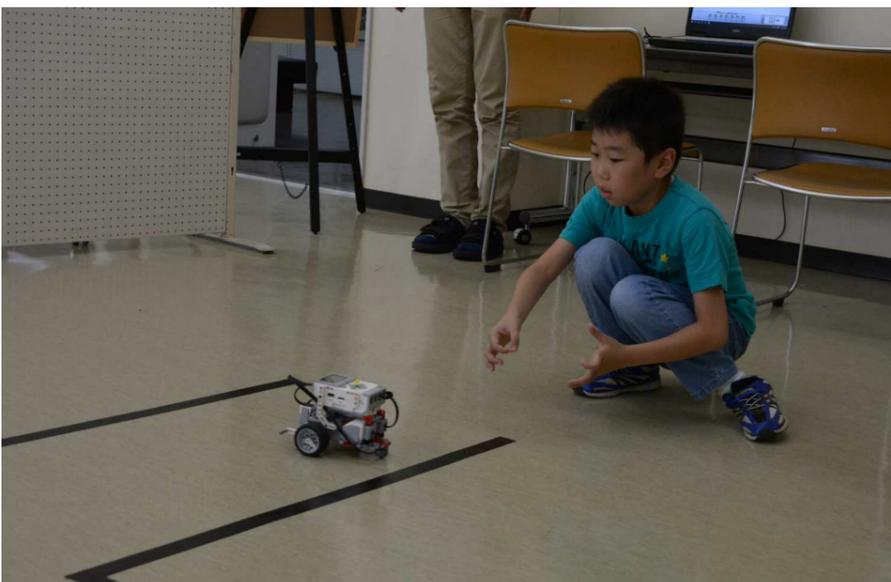
若い世代を中心にした、町民有志による実行委員会「ほつつあれDEいいんかいっ!」が主催。避難指示解除から1年に加え、町政60周年に合わせて、FUREサテライトでは

町民の笑顔広がる 復興祈念の集い

コミュニティの再生や復興を盛り上げた。檜葉町コミュニティセンター、

子どもを対象に、簡単なプログラミングで動かすことができるLEGOロボットワークショップを実施し、参加した子どもたちは思い通りに動かそうと、プログラミングに試行錯誤しながら楽しんで

た。このほか、ゆず太郎グッズも当たる、おなじみのマミーすいとんの販売が行われるなど、多くの人が訪れ、笑顔で楽しんでた。



自分のプログラミング通りに走行するかを試す子ども



ライブに登場した渡辺俊美さん



栃木県立佐野高校1, 2年生 町民にインタビュー 交流深める

檜葉町訪問

栃木県立佐野高校の1, 2年生10人が8月10、11の2日間、檜葉町を訪れた。10日は、いわき市平下山口のサポートセンターならはで、檜葉町民へのインタビューも行った。

同校は国際社会で活躍する人材の育成を目指す、文部科学省のスーパーグローバルハイスクールのSGH)の指定校で、そのフィールドワークの一環として福島を訪問。同日から11日までの日程でい



わきや檜葉町のほか、川内村、福島大学を訪れ、東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故がもたらした課題と向き合った。同サポートセンターでは、5人の町民が生徒たちの聞き取りに答えた。生徒たちは、震災前の暮らしや、避難生活で楽しかったこと、辛かったこと、震災前の食生活などを質問。時折、町民は涙を浮かべ、生徒たちも涙を拭いながら、話に聞き入り、メモを取り、前で発表した。

みんなが来てくれてとてうれし。みんなの目は輝いている」と声を掛けられると、笑顔で弾きさせた生徒たち。一緒に昼食を食べ、さらに交流を深めた両者は別れがなかったようで、互いに姿が見えなくなるまで手を振っていた。生徒たちはこのあと、インタビューで聞いたことを中心に、8日からの学びをまとめた。11日には檜葉町の温泉施設「おかげ荘」で、訪問をコーディネートした福島大学うつくしま未来支援センター相双地域支援サテライト長の仲井康通特任教授らの前で発表した。

営農再開の歩み

榎葉町・上繁岡水田復興会

4 熊本県から 高校生来る

8月18日、熊本県から10人の高校生が、榎葉町・上繁岡水田復興会の佐藤充男代表の元を訪れた。宇土市の宇土高、宇城市の松橋高、御船町の御船高、山都町の矢部高の4つの高校に通う生徒の集まり



生徒たちにこの5年間のことを話す佐藤さん

ら、8月中は会としての活動を休んでいた。そんな最中での、思わぬ来客だった。町で課題に向き合い、取り組む人の生の声に接したい。その思いに応えた佐藤さんは、生徒たちを自宅に招き入れ、皆さんも地震で大変だっただろうけど」とねぎらい、少し照れた様子で、特に話すようなこともないんだけど…」と切り出しながら、この5年間のことを、とつとつと振り返った。

飼っていた牛にエサをやるため、検問所に立っている警察官と半ばけんかしながら、立ち入りを認めてもらったこともあった。家族同然だった牛たちを泣く泣く殺処分せねばならなかった。思い出し、涙が出てくる。佐藤さん夫妻は現在、榎葉町の自宅へ戻ったが、原発事故後は仙台、茨城と身を移し、いわき市内にアパートを借りることができ、何とか落ち着くことが出来た。3年前から実証栽培に携わり、昨年は、米を安倍総理の元へと届けた。栽培した米は、検査

左端い、安全なことは確認済みだ。しかし、人の反応はさまざま。心無い言葉を口にする人もいるし、匿名で発言が許されたインターネット上でそれを目にして、何とも言えない気持ちになった。淡々とした口調ながらも、体験してきたことの重みが詰まった佐藤さんの言葉に、高校生たちは視線をそらさず、じっと聞き入った。思っていた以上の風評被害だと、口にする生徒も。自分の目で見て、自分の耳で聞くことの大切さを、実感していたようだった。そんな生徒たちに、最後に話したのはこんなことだった。日本は、農業が栄えないと、国は栄えないだろう。今では、農業をやらないうという人も出てきていられるけれど、誰かがやらなければ。なぜ、避難先から町に通い、仲間たちとともに農業に懸命に汗を流すのか、この言葉で、生徒たちは実感することができただろう。台風が相次いだ8月だったが、風にも負けなかった復興会の稲たちは、黄金色の穂で実り、頭を垂らしている。稲刈りは9月下旬を予定する。最後の最後まで、気は抜けない。

コスモス フォトコンテスト

10月20日〆切

作品募集!!

4

榎葉町役場

あおぞらこども園

国道6号

天神岬→

↑コスモス栽培場所

コスモス栽培場所の地図

榎葉町北田地区 企画した。応募要件は、北田の整備が進み、天

地内に咲くコスモス

は、コンパクトタウ

の整備が進み、天

地内に咲くコスモス

川内村フォトコンテスト

11月20日まで

川内村役場 総務課 企画課係

TEL.0240-38-2111

FAX.0240-38-2116

応募部門

- 風景部門
- 人物・イベント部門

第1期 川内村フォトコンテスト応募票

応募部門	期 別	人 数 (イベント)
風景部門	第1期	10名以内
人物・イベント部門	第1期	10名以内

川内村フォトコンも募集中

前号で紹介した「門」の2部門で開催。川内村フォトコンテスト」も、引き続き応募作品を募集している。締め切りは来年1月20日。

川内村の魅力発見

見く写真撮りさ、川内村に来てくちえ

く」をテーマに、村の人、風景、自然などを収めた作品を募集している。

作品は「風景部門」で。応募先、問い合わせは川内村役場総務課企画制作係11979-1292川内村大字上川内字早渡11の24、電話0240-38)2111、ファクス0240-38)2116まで。

取り戻そう榎葉の自然!!

コスモス フォトコンテスト

作品募集!!

神岬公園にも近い。実行委員会では、地域活性化、人のつながりを回復させるとともに、帰町意識にもつなげていこうと、約1.4畝の水田に、コスモスの種をまいた。

見ごろを迎えたこの時期、多くの人に鑑賞してもらおうと、咲き誇る様子もに、咲き誇る様子を写した作品によるコンテストを初めて企画した。

応募要件は、北田の整備が進み、天

地内に咲くコスモス

は、コンパクトタウ

の整備が進み、天

地内に咲くコスモス

を題材にしたもの。大きさはカラープリント四つ切(ワイドA4も可)。応募作品の中から、最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作賞5点を選び、

を題材にしたもの。大きさはカラープリント四つ切(ワイドA4も可)。応募作品の中から、最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作賞5点を選び、

11月上旬に表彰するとともに、町内に展示することにしちえる。

申し込みは、郵送の場合、〒971-8111いわき市小浜大原甲新地23山内茂樹さん宛、持ち込みは一般社団法人ならはみらいまで。

問い合わせは山内さんへ電話0907931-6170日まで。

主催 榎葉町北田地区地域活性化実行委員会 協賛 榎葉町 榎葉長裕社